整理番号

D－2－3　　1002

標 題 名

園芸作物醫法

著 者 名

発行者名

長野県立農事試験場

発 行 年

?

製作年月

平成３１年３月

54. 12. 12
植物防疫資料館
C－520－5026
木下周太
寄贈

園藝作物醫報

長野縣農事試驗場

54.12.12
植物防疫資料館
C－520－5026
木下周太
寄贈

園藝作物醫法

長野縣農事試驗場

本縣の園藝年生産額は約一千万圓となつている園藝作物や其生産品が病害虫の爲めに加害せらるゝ額は内輪に見積つて少くも一割に達すること故若し病害虫の防除を滿足に行つたならば一千二三百万圓の生産を擧げることは容易であるに相異ない、農園藝業に携はつても作物病害虫の防除を行はぬもの或はこれを怠る者は決して産を興し家を旺ならしむる人ではない、砂上の樓閣に等しく薄氷の上を歩むが如き農業の經營はいつかは必ず不成績に終る。今の世の人は能率增進を叫ぶ至極結構なる叫びである、我々が尤も能率を揚げ得るは健康な時であると同樣作物の全器官を揭げて其最大能率を發揮せしむる爲めには作物の健康を圖らねばならない、病虫害の防除を周約にする目的は作物保健を第一義とする從つてこれが實行は能率躍進の第一法なるを肯定せずには居られない。農事試驗場の存在を御承知の諸君は今後一層其試驗成績を利用して作物醫法を研究して貰ひたい。

果樹蔬菜病虫防除上特に注意すべき事項

注意事項の内特に今後本縣果樹界の運命を左右すべき主要なるものを摘録して參考の料に資すべし

一、園藝病虫防除實行組合を建設すること

病害虫の防除は共同施行に依つて初めて其效を現はす斯業者は近隣相寄りて其實行組合を建設して、藥品の共同購入より一齊防除を行ふは勿論進んで荷造販賣に至る迄協力施行するを必要とす購賣販買につきては系統農會及産業組合と適宜聯絡を保たるるを可とす

一、防除曆を實行するを必要とす

園藝病害蟲防除曆を協定し年頭に決定したることは其年度間に必行するに非されば成功疑はし茲兩三年前より青森縣の園藝界が嶄然頭角を揚げて再び斯界に雄飛するに至りしは正に防除曆貫行の賜と云ふも過言にあらざるなり

一、健全なる種苗を選擇すべし

病害虫が種苗に伴ふて傳染するの例枚擧に閑なし最近東京市小石川區原町日本植物愛護會に於て病害虫の附着なき種苗の責任讓渡を開始せり時勢の要求によりてなるべし、無檢查のもの安く檢查濟のもの多少高價なりとも吾人は敢て其後者を選ばん

一、園圃の地力增進を圖るべし

且て原因不明と認められし、人体の疾病がビタミンの欠乏によること漸次闡明せらるゝが如く果樹の疾病も近時營養の不足に基くもの少からず見出されたり梨黑星病、苹果褐斑病等は其著例にして地力增進法と予防劑の撒布を併用すべし

地力增進の法多々あるも堆厩肥施與を第一とす、堆厩肥得難ければ綠肥作物を園內に間作して適期に犂入るべし

一、果樹園の保水力を增進する樣努むべし

苹果縮果病等水分不足の爲めに惹起せらるゝ病害は園圃の保水力維持によりて輕減せらる、其法堆厩肥又は綠肥を犂入るゝを第一義となす

一、桑園に果樹間作如何

害敵を殺減せざれば結果無き果樹類と其葉片を以つて虫類を飼養すべき桑樹とを同一圃場に栽植して兩つ乍ら良果を得ること難事中の難事なり、桑園に蔬菜を間作する場合亦これと同樣の結果あらん

一、器具藥劑を準備すべし

農家が鍬鋤を用意せるが如くに噴霧器藥劑撒布桶と一通りの豫防驅除劑は常に農具室に準備すべし噴霧器は車輪形大形のもの漸次需要を增すに至れる傾向あり、良噴霧器及信用ある防除劑等は常に當場同窓會發行の月刊雜誌時報及殺菌驅虫要覽等によりて紹介す常に購讀を怠らざらんことを望む

一、病蟲防除法を研究すべし

毒劑と謂へば葉を燒くものと怖るゝものあり。甚しきは園藝業に從ひ乍らボルドウ液の調製を辨へざるものあり病害虫は其種類極めて多く其各個に性狀防除法を異にせるを以て當業者は常に良著書に就きて研究するは勿論農事試驗場及系統農會と聯絡を採り實地の指導を仰ぐこと必要なり當場は當業者の質問を歡迎す、遠き慮無ければ必ず近き憂あらん

附記　作物病害蟲防除參考書御入用の方は研究の目的を記して御問合せありたし良書を指定して御回答申すべし

主要園藝病蟲防除劑一覽

詳細は當場編纂殺菌驅蟲要覽參照ありたし（當場同窓會にて實費頒布す）

	調合量	調製法	適用病蟲害	備考
石灰ボルドウ液	硫酸銅 一二〇匁 生石灰 六〇―一二〇匁 水 二斗―四斗	全量の半量の水を以て硫酸銅を溶解し同じく半量を以て生石灰を溶解し兩液を同時に大桶に注加し攪拌すべし調製液に研ぎたる刃物を入れ刃面に銅の附着する場合は更に石灰水を注加すべし	一、葡萄黑痘病、梨赤星病、黑星病、瓜類露菌病等に効果大なり 一、薯類病害豫防として浸漬消毒をなすことあり 一、地衣蘚苔類を驅除し又樹木の切口傷痍に塗布す	一、本劑は又害蟲豫防となりこれに毒劑を加用すれば更に効多し 一、本劑に砂糖五〇匁加へたるものを砂糖ボルドウ液と呼び石鹼二〇匁―四〇匁加用したるものを石鹼ボルドウ液と云ふ共に粘着力を增し藥害を少からしむ
銅石鹼液	硫酸銅 六―一〇匁 石鹼 硫酸銅の四―五倍 水 一斗	硫酸銅を水九升に溶解し此れに一升の水にて煮沸溶解したる石鹼液を高温の儘混入し充分攪拌すべし水一斗に六匁の硫酸銅を混したるを六匁式、水一斗に十匁の硫酸銅を混したるを十匁式等と稱し其濃度を示す標準とす	一、本劑は石灰ボルドウ液を以て豫防する病害には總て可なり 一、粘着力強く稻麥葱等の撒布に適す	一、本劑は長日に亘るも石灰ボルドウ液の如く分離することなし 一、本劑は未だ研究中に屬すること多し
バリスグリーン加用ボルドウ液	硫酸銅 一二〇匁 水 一斗半 生石灰 一二〇匁 バリスグリーン 三〇匁 水 一斗半	バリスグリーンを加へし石灰水と硫酸銅溶液を双方より同時に大桶に移し攪拌す	咀嚼口害虫驅除の効あり各種病害豫防の効を兼ぬ 弱き作物には藥害あり	バリスグリーンハ生石灰に湯を加へて消和する前に加へおくをよしとす
亞砒酸曹達液加用ボルドウ液	硫酸銅 一二〇匁 水 一斗半 生石灰 百二十匁 亞砒酸曹達液 一合 水 一斗半	前者に準ず	前者に準ず 本劑は苹果、梨等の防除曆を參考して使用せよ 馬鈴薯にも用ふ	亞砒酸 百二十匁 洗濯曹達 五百匁 水 二升一合 を混じ煮沸して亞砒酸曹達液を作る、劇毒なり
石灰硫黃合劑	濃厚 硫黃 一、二〇〇匁 生石灰 六〇〇匁 水 一斗	鐵の大釜二個を用意し其一を煮釜他を湯釜とす煮釜に生石灰と硫黃華と熱湯を加へ蓋をなし強熱を以て煮沸しつゝ漸次湯釜の湯を加ふべし煮沸中は時々攪拌す煮沸一時間餘に達すれば火を撤し冷却したる後水を加へ撒布す樽へ入るれば永く貯へ得べし	一、冬季落葉果樹及桑の介殼虫驅除としてボーメー比重四度液を二回撒布し極めて有效なり 一、苹果、梨の赤ダニ、茄苺の赤ダニ驅除に〇、三―〇、五度液を數回撒布す 一、麥其他の白澁病豫防として〇、五度液を撒布す	一、本劑附着せば衣類皮膚を損す 一、本劑には販賣用のもの數種あり孰れも比重約三十三度あり稀釋使用す
砒酸鉛加用石灰硫黃合劑	水にて稀薄せし硫黃合劑 一斗 砒酸鉛 二十五匁	砒酸鉛に小量の水を加へ糊狀となし置き硫黃合劑に混和	咀嚼に害虫驅除の効あり硫黃合劑にて予防し得らるゝ病害豫防の効を兼ぬ	砒酸鉛は手にて練りつゝ硫黃合劑に混ず
石油乳劑	石油 二升 石鹼 卅匁 水 一升	石油空罐と約三升入りの把手付き蓋付罐各一個を用意し前者に水と石鹼を後者に石油を入れ蓋をなして石油空罐中に納め煨爐の炭火上に載せて加熱す石鹼は溶解し石油充分温まるを俟つて煨爐を遠避け兩液を石油罐中に混和し強く攪拌し乳樣の原液を得	一、介殼虫 冬期五倍―七倍 夏期一〇倍―一五倍 一、蚜虫類一五倍―二〇倍 一、喰葉甲虫及同幼虫毛虫類一〇倍―二〇倍	一、石鹼は上等のものを用ふべし（浮石鹼を良しとす） 一、鹽氣石灰質強き水又は器具を用ひざること 一、乳劑を稀釋するには初め三倍位の湯を以てポンプにて充分混合し後水を加ふること
除蟲菊加用石油乳劑	石油 一升 除虫菊 二〇匁 石鹼 一五匁 水 五合	石油に除虫菊を混じ能く振盪し二晝夜以上密閉し除虫菊の有効成分を充分に浸出せしめ後布にて濾過し滓を去り前記石油乳劑と同樣の方法を以て調製す	一、介殼虫 冬期七倍 夏期二〇倍―三〇倍 一、蚜虫類三〇倍―四〇倍 一、椿象類二〇倍 一、食用甲蟲及幼蟲毛虫類二〇倍―三〇倍	一、調製使用等の注意石油乳劑に同じ 一、本劑は石油乳劑の約倍量に稀釋し同等の効果を奏す
六液	除蟲菊 二〇匁 石鹼 二〇匁 石油 一合 水 一升	石鹼を所定の水を以て煮沸溶解し之れに豫め石油にて除蟲菊粉を入れ時々攪拌し二夜以上密閉し置きたる除蟲菊浸出石油を加へ充分攪拌混和すれば即ち帶綠黃色粘重なる原液を得害蟲の種類に依り適宜稀釋使用す	一、蚜蟲、浮塵子、介殼虫孚化當時二斗―三斗に稀釋 一、青虫類（稻の螟蛉其他）一斗五升―二斗同 一、毛虫類、刺虫一斗―一斗五升同 一、食用甲虫及同幼虫一斗―二斗同	一、本劑は除虫菊乳劑の簡易なるものにて作物に對する藥害少し 一、本劑は岡山縣六六園主小山氏の創製せるにより六液又は小山式除虫菊乳劑と稱す
除蟲菊石鹼液	除虫菊 一〇―二〇匁 石鹼 二〇匁 水 一斗	石鹼を薄く削り二升位の水にて煮沸溶解せしめ火を去り之れに除蟲菊粉を加へて能く攪拌し其儘一晝夜以上密閉し水を加へて一斗となし撒布す又除蟲菊と石鹼とを共に二升位の水にて煮沸溶解せしめ後水を加へて一斗となし撒布す	蚜虫、蝜、螟蛉類、毛虫類、尺蠖類、鋸蜂の幼虫、喰葉甲虫及同幼虫等に有効	一、石鹼は普通の洗濯石鹼にて可なり 一、本劑は冷却して粘氣を增したるものを使用すべし 一、藥劑分量は虫の強弱に依り加減すべし
上畠殺虫劑	上畠殺虫劑 四十匁 水 一斗	上畠殺虫劑を削り布包となし冷水中にて搾り溶解す	石に準ず	上畠六十五匁水一斗液に硫酸銅八匁を入るゝれば驅虫力ある銅石鹼液を得
デリス粉石鹼液	デリス粉 十匁 石鹼 二十匁 水 一斗	デリス粉と削りたる石鹼とを混じ湯一升を加へ一夜放置し水九升を加へて撒布	除虫菊石鹼液と同じ	撒布後十數時間を經て害虫死滅し始む
フォルマリン液	苗床畑ノ消毒一坪 半ポンド―一ポンド 種苗消毒 五〇―二〇〇倍液 瓦斯消毒 一千立方尺に對し〇、七―一、二ポンド	土壤消毒には二百倍位に稀釋し四五寸の耕土に反復撒布す、種苗消毒には上記の濃度に五分―十分間浸漬し風乾す、瓦斯消毒はフォルマリンに同量の水を入れ熱するか又はフォルマリン〇、二五ポンドに對し過滿俺酸加里〇、一七五瓦を投ず	一、茄立枯病、蒟蒻腐敗病、白紋羽病、紫紋羽病温床等ノ土壤消毒 一、甘藷、百合、蒟蒻、等の鱗莖塊根浸漬消毒 一、密柑青黴病、果實の疸病類の瓦斯燻蒸消毒	一、フォルマリンは製造所に依り蟻酸アルデヒードの含量を異にす普通三五%なり 一、瓦斯燻蒸は休眠期苗木の消毒を行ふことあり
タール合劑	コールタール 二容 粗製魚油 一容	兩者をよく混和す	綿虫驅除	秋より初春迄に樹幹被害部に塗る但細き部分には石油塗抹

園藝作物主要病害一覽

（詳細は當場編纂殺菌驅蟲要覽參照）

	病名	病原越冬部所	被害部所	防除法要旨
苹果	赤星病	いぶき枝	葉	落花前後ボルドウ撒布、いぶき伐採
	褐斑病	葉	葉	袋掛後ボルドウ撒布、堆肥多施
	念球病	落果	果	毒劑加用ボルドウ液又は同上加用硫黃合劑袋掛
	黑腐病	同右	果	同右
	煤斑病	葉、果、	果	ボルドウ液又は石灰硫黃合劑
	腐爛病	幹枝	幹	衰弱を防ぐべし、硫酸鐵塗、石灰綳帶
	縮果病	水不足	果	堆厩肥、綠肥加施
	紋羽病	根	根	明溝遮斷、硫酸鐵液、フォルマリン液による消毒
梨樹	黑星病	葉	葉、果、	ボルドウ液、堆肥多施
	赤星病			前出
	褐斑病	落葉	葉	ボルドウ液撒布
	黑斑病	葉、果、	果	硫酸銅液に浸した紙袋掛、ボルドウ撒布
	葉腫病	幹枝（ダニ）	葉	硫黃合劑（洋梨に多）
	裏白澁病	葉、枝、	葉	硫黃合劑
洋桃	縮葉病	落葉	葉	硫黃合劑
	白粉病	同右	葉裏	同
	炭疽病	枝、果、	果、枝、	品種選擇、管理注意、硫黃合劑
	黑星病	落果	果	硫黃合劑、袋掛
	穿孔病	枯葉	葉	硫黃合劑
	膏藥病	枝幹	幹	削り石灰乳塗抹、硫黃合劑撒布
櫻桃	炭疽病	病果	果	落花直後より銅石鹼液使用
	穿孔病	落葉	葉	收果後ボルドウ液使用
	葉枯病	落葉	葉	同右
	樹脂病	幹	枝幹	苹果フラン病に準ず
葡萄	赤澁病	葉	枯葉	ボルドウ液
	斑點病	同右	同右	同
	露菌病	同右	同右	同
	黑痘病	果、枝、	果、枝、	同（開花前後撒布必要）
	白澁病	果、枝、	枝、葉、	同
	晩腐病	果、	枝、果、	八月中銅石鹼液撒布
	軸腐病	果	同右	同
柿樹	落果病	非寄生	果	秋肥を充分に施す、剪定整枝を周約にす
	落葉病	葉	枯葉	過石灰四斗式ボルドウ液
	炭疽病	枝、果、	枝、果、	同右
	根頭癌腫病	根	根部	被害部削除、苗木檢査
其他	栗胴枯病	枝幹	枝幹	被害部除去、燒棄

石灰ボルドウ液撒布により豫防し得る蔬菜病害（銅石鹼液撒布も亦可）

瓜類露菌病　茄子褐色圓星病　馬鈴薯夏疫病
甘藷蔓割病　胡蘿蔔斑點病　茗荷葉枯病　蠶豆褐斑病
大豆斑葉病　山葵白錆病等

銅石鹼液撒布により豫防し得る蔬菜病害

菜豆角斑病　豌豆白澁病　ちしや褐斑病　セルーリ斑點病
恭菜斑點病　葱露菌病　菜類黑斑病　ほうれん草露菌病等

其他の病害

豆類彌地病	土壤中	石灰、木灰犂入、深耕
瓜類立枯病	同右	苗床土換、石灰窒素による圃場消毒
甘藍腐敗病	同右	排水、石灰窒素による圃場消毒
馬鈴薯瘡痂病	種薯、土中	種薯フォルマリン消毒、土壤硫黃華撒布
馬鈴薯葉捲病	種薯	莖葉生育中健株に目印しこの內より種薯採ること
菜類根瘤病	土中	排水、病地は石灰又は石灰窒素にて消毒
山葵腐敗病	土中	日除により水冷溫ならしむ、莖葉ボルドウ撒布、病圃石灰消毒

園藝作物主要害蟲一覽

（詳細は當場編纂殺菌驅蟲要覽參照）

作物	名稱	發生回數	越冬	防除要旨
苹果	フナガタケムシ	一	土中蛹	除蟲菊石鹼液、毒劑、幼時群棲の間に潰殺
	リンゴズムシ	一	卵内幼虫	毒劑、幼時に潰殺
	クロメクラガメ	一	卵	無翅幼蟲の間に除虫菊石鹼液、上晶
	アカホシハムシ	一	成虫	毒劑
	ワタムシ	多	幼虫	タール合劑、石油、上晶、石油乳劑
	ナシホシケムシ	一	幼虫	毒劑、發芽前幹にタングルフード塗抹
	ナシヒメシンクヒ	三	繭内幼虫	袋掛、幼虫潰殺、六液撒布
	ナシマルカヒガラムシ	三	成虫	石灰硫黄合劑
	オホアトキハマキ	一	幼蟲	枯葉燒却、毒劑
	モヽチヨツキリゾウムシ	一	土中蛹	袋掛、被害果燒棄、毒劑、成蟲捕殺
	クワカミキリ	三年一回	幼蟲	除蟲菊鬚付油、二硫化炭素等挿入
	オホワタカヒガラモドキ	一	幼蟲	七月末頃硫黄合劑又は上晶撒布
	ノウサギ	多	親	毒劑加用濃ボルドウ、コールタール
梨樹	ナシホシケムシ			前出
	ナシヒメシンクヒ			前出
	ナシオホシンクヒ	二	幼蟲	幼蟲潰殺、被害果處分、袋掛
	ナシミバチ	一	成蟲	成蟲捕殺、產卵期及幼蟲初期接觸劑撒布
	ナシキジラミ	一	成蟲	煙草石灰液、上晶、デリス劑撒布
	ナシマルカヒガラムシ			前出
	シロナガカヒガラムシ	一	成蟲	ナシマルカヒガラムシに準ず
	オホアトキハマキ			前出
	ハナムグリゾウムシ	一	成蟲	葉肉加害の成蟲には毒劑可、其他要今後研究
	グンバヒムシ	三	成蟲	ナシキジラミに準ず
	アカダニ	多	卵又は成蟲	石灰硫黄合劑、硫黄華
洋桃	クワカヒガラムシ	三	成蟲	發芽前と展葉後硫黄合劑使用
	モヽヒメシンクヒ	二	土中繭	袋掛、被害果處理
	モヽゴマダラシンクヒ	二	繭内幼蟲	同右
	モモチヨツキリゾウムシ			前出
	コスカシバ	一	幹内幼蟲	被害部に石油注入、幼蟲潰殺
櫻桃	クワカヒガラムシ			前出
	コスカシバ			前出
柿樹	ミノムシ	一	幼蟲	毒劑、幼蟲潰殺
	イラムシ	一	繭内幼蟲	除蟲菊石鹼液、毒劑
	ミムシ	二	同右	落果處理、除蟲菊石鹼液、袋掛
	オホワタカヒガラモドキ			前出
	フタツノナガシンクヒ	一	成虫	被害枝燒棄
葡萄	マメコガ子	一	土中幼虫	毒劑
	ブダウスカシクロバ	一	蛹	除蟲菊石鹼液、毒劑
	アカガ子サルハムシ	一	成虫	毒劑
	フタモンヒメヨコバヒ	三	成蟲	除蟲菊石鹼液、六液、上晶等を幼蟲期に使用
	フ井ロキセラ	多	各態	耐强性砧木
	ブダウスカシバ	一	幼蟲	被害枝を發芽前に燒く、良き炭を待、共同施行必要
	ハマキゾウムシ	二	成蟲	成蟲捕殺、被害葉燒捨、毒劑
其他の果樹	タマカタカヒガラムシ	一	幼蟲	オホワタカヒガラムシに準して驅除す、各種果樹を加害す
	ウメノキケムシ	一	卵	杏に多し、巢を燒くこと
	ノ子ヅミ	多	親	チブス菌又は猫いらず利用

備考　防除要旨中單に毒劑とあるは亞砒酸曹達液加用ボルドウ液、パリスグリーン加用ボルドウ液、砒酸鉛加用ボルドウ液、砒酸鉛加用銅石鹼液砒酸鉛加用石灰硫黄合劑等にして撒布の期節に據り、作物の種類によりて適宜選擇使用すべし

作物	名稱	發生回數	越冬	防除要旨
菜大根類	キスヂノミハムシ	數	成蟲	除蟲菊木灰、煙草末撒布、成蟲拂落
	ナノクロムシ	二	土中幼蟲	六液、除虫菊石鹼液、成蟲をニホンカブラバチと云ふ
	ナノアオムシ	三	蛹	六液　除虫菊石鹼液、上晶
	ナノサルハムシ	數	成蟲	同右、除蟲菊木灰亦可
	ナガメ	二	成蟲	同右
	ナメクヂ	三	親	石灰撒布、古蓆に米磨汁をかけ誘殺
豆類	ヒメコガ子	一	幼蟲	砒酸鉛加用ボルドウ液、又は同上加用硫黄合劑
	マメノハマキムシ	三	成虫	同右、除蟲菊石鹼液亦可
	コフキゾウムシ	一	成蟲	砒酸鉛加用ボルドウ液又は同上加用合劑
	エンドウゾウムシ	一	成蟲	二硫化炭素燻蒸、食用豆熱殺、種用豆はナフリン、除蟲菊粉、又は樟腦を混じ貯藏
其他の蔬菜害蟲	オホテントウムシダマシ	一	成蟲	亞砒酸曹達液加用ボルドウ液
	ウリバヒ	一	成蟲	幼苗被覆、砒酸鉛加用ボルドウ液撒布
	アブラムシ	多	卵又は仔	除蟲菊石鹼液、六液、上晶、デリス粉石鹼
	ヨトウムシ	二	成虫	採卵、幼時六液撒布、幼蟲捕殺、明溝遮斷
	子ギノムクゲムシ	數	成蟲	六液、除蟲菊石鹼液
	コホロギ	一	成虫	圃場に穴を穿ち刈草を入れ此の内に集る蟲を叩く
	ゴバウハマキ	數	卵	砒酸鉛加用ボルドウ液又は同上加用硫黄合劑
	アリ	數	成虫	青酸加里水溶液、クレオリン
	アカダニ			前出
	ノネヅミ			前出

果樹病蟲防除暦實例

一、苹果之部

更級郡聯合園藝組合

二月
紋羽病、腐爛病、被害部、處理並幹面にある粗皮を削つて置きなさい（要覽一三七頁參照）

三月
剪定落葉剩枝處理並枝、幹、垣根等に在る越冬害虫の卵幼蟲蛹等を潰しなさい、綿蟲發生豫防としてはタール合劑、石油塗沫をしなさい（要覽五六頁七〇頁參照）

四月中下旬
發芽十日前石灰硫黄合劑ボーメ五度液（普通賣品の約六倍か七倍）を撒布しなさい

五月上旬
芽出し當時パリスグリーン又は亞砒酸曹達液加用三斗式ボルドウ液を撒布しなさい
開花直前にも芽出し當時と同一の藥劑を撒布しなさい

五月下旬—六月中旬
落花後砒酸鉛加用石灰硫黄合劑　〇、五度液（普通賣品の七十倍）位を撒布しなさい（要覽三八頁參照）

注意　國光には砒酸鉛加用三斗式ボルドウ液を撒布して差支ない、實腐病に侵された稚果は採集燒棄しなさい五月下旬頃から害蟲の發生特に多き場合は除蟲菊加用石油乳劑（要覽五二頁參照）を撒布しなさい

六月上旬
果實小指頭大の時砒酸鉛加用石灰硫黄合劑　〇、五度液を撒布しなさい、中旬又は下旬袋掛の事新聞紙有底八ツ切一重袋を標準とする

注意　象鼻蟲の發生する地は打落法を行ひ捕殺しなさいそして袋掛を急ぎなさい

七月
パリスグリーン又は亞砒酸曹達液加用三斗式石灰ボルドウ液を袋掛したるものへ撒布しなさい袋掛せぬものへは石灰硫黄合劑の　〇、五度液を用ひなさい（砒酸鉛加用のものがよろしい）
アカダニやオホワタカヒガラモドキ（ワタカヒガラ）が發生したなら石灰硫黄合劑の　〇、五度液を葉裏より撒布しなさい

八月
下旬より九月に互り除蟲菊加用石油乳劑三十倍液或は六液を撒布して毛蟲、綿蟲、軍配蟲、蚜蟲等を驅除しなさい（上晶驅蟲劑も亦可）

十月
注意　五月以後幹の綿蟲發生部へは石油乳劑の濃い液を塗りなさい

十二月
鐵砲蟲（要覽一七四參照）の被害箇所を處理し果樹園を清淨になさい
野鼠、野兎の被害を注意しなさい
硫黄合劑の四五倍液を塗つて置くと鼠も兎も喰いませぬ

附記
一、パリスグリーンはボルドウ液三斗に三十匁亞砒酸曹達液はボルドウ液三斗に一合、砒酸鉛は濃めた硫黄合劑一斗に二十五匁内外加用のこと
一、腐爛病被害部削除の上硫酸鐵濃厚液塗抹
一、摘果して一花叢一果を殘す事
一、傾斜地の果樹園には綠肥間作必要
一、鐵砲蟲の穴には除蟲菊粉と澱粉をまぜて堅き團子とし挿入
尚苹果消毒法に關しては農事試驗場發行の殺菌劑驅蟲劑要覽（本年三月新版）及同場月刊の時報に就きて研究を希望す

二、梨樹之部

諏訪郡飯嶋農事組合

害蟲防除
イ、石灰硫黄合劑　ボウメ五度液　四月上中旬發芽直前撒布　但太平種には一切之を用ひず
ロ、鋸蜂驅除　早生種の花に集るものに除蟲菊石鹼合劑又は六液撒布
ハ、梨木蝨　煙草石灰合劑　落花直後撒布（五月十七八日）
ニ、姫心喰虫　大心喰蟲幼蟲驅除
冬期剪定の際　脫苞當時　落花直後其他
ホ、誘蛾燈點火（電燈）　自六月上旬　至九月六旬
ヘ、袋掛（新聞紙八ツ切）　六月中下旬施行
袋には荏油を塗る（今村秋、晚三吉には二重掛す）
ト、赤壁蝨其他　發生の際隨時石灰硫黄合劑又は除蟲菊石鹼合劑撒布

病蟲防除
イ、石灰ボルドウ液（亞砒酸曹達液加用）五月上旬開花直前撒布
ロ、砒酸鉛加用ボルドウ液　五月中旬落花直後撒布
ハ、砒酸鉛加用ボルドウ液　五月二十五日果豆大の時撒布
ニ、砒酸鉛加用の薄き石灰硫黄合劑六月上旬果小指頭大の時撒布
ホ、砒酸鉛加用の薄き石灰硫黄合劑袋掛直前撒布
但今村秋と太平には藥劑撒布を行はざることあり

其他の共同作業
イ、摘果　嚴重に行ひ品質の向上を圖る
ロ、肥料配合　窒素四貫　燐酸三貫　加里四貫を標準とす　（但十二三年生の成木、一反歩當り）
ハ、冬期三月下旬迄に夏期剪定は七月中旬頃施行
ニ、共同購入　硫酸銅、硫黄華、生石灰、細繩、新聞紙袋、針金等
ホ、共同販賣　朝市開催、製糸場へ賣込
ヘ、協同研究　作業の協議、專門雜誌の購讀等

三、葡萄之部

東筑宗賀村農事組合

一般の品種に對し新蔓約二寸の時、新蔓約六寸の時開花直前、凋花直後、果山椒粒大の時、各一回砒酸鉛加用三斗式少石灰ボルドウ液但歐洲種には三斗五升乃至四斗式液の撒布によりて黑痘病、アカガ子サルハムシ、ミノムシ、ブダウハマキゾウムシ等防除す
○浮塵子發生の地方は六月末及八月初頃其幼蟲期に除虫菊石鹼合劑又は六液灌注上晶驅蟲劑代用可
○晚腐病、白澁病、露菌病等發生の虞あらば八月中下旬及九月上旬各一回七匁式銅石鹼液灌注

備考
一、噴霧器（今後葡萄栽培上特に注意すべき事項）は宿谷製作所の最新式噴霧器宜しかるべし
一、除蟲菊粉は山彦製藥効强し
一、軸腐の被害ある地方は剪定を嚴正に行ひ適宜摘果するを要す
一、カトウバ、コンコード系多き地方は品種の向上を圖るべし
一、毒劑は古河電氣工業會社製品可ならん
一、ブダウハマキゾウムシ被害葉は一齊に採取燒棄のこと
一、フ井ロキセラ耐强砧木を多數準備すべし
一、石灰を肥料として使用するを可とす
一、肥料は運利きとならぬ樣注意すべし、軸腐多き地方は殊に燐肥及木灰を充分に供給すべし
一、綠肥作物を間作して肥料經濟を圖るは今後の重要なる懸案なり
一、黑痘病及び晚腐病菌は枯枝上に越冬するを以て被害樹は格別其剪定を嚴重となし病巢を燒棄し無病の新梢を豐富ならしむることは必要なり
一、冬期剪定したる枝梢はスカシバ成蟲羽化前これを燒棄すること其枝梢を穴中にて蒸燒きすれば火鉢用の炭を得

四、洋桃之部

北佐久郡南ヶ井村和田區

炭疽病は葉新梢果實に發生し、殊に早生種に被害多し、果實は落果し、樹は衰弱す、年々幾分の發生あれども春季溫暖多濕なる時大發、生をなす縮葉病は葉火膨れの如く腫張し遂に落葉す被害甚だしき時は始んど全葉加害せらるゝことあり、ゴマダラ心喰虫は桃果に最も普通にして姬心喰は多く心を生ぜしめ、果實には比較的少なし、桑介殼蟲は樹幹の、養液を吸收し著しく樹勢を衰弱せしむ、尚同折地には白粉病（葉裏に白斑を生ず）黑星病（果に黑星を生じ黑點を生ず）細菌性穿孔病（葉に小斑を生じ落葉す）あり

一、發芽前　石灰硫黄合劑　ボウメ五度液灌注
開花直前　同　同　二度液灌注
落花直後　同　同　〇、三度液灌注
果實豆大の時　同　同　〇、二度液灌注
果實小指頭大の時　同　同　〇、一五度液灌注

附記
一、桃炭疽病耐病性品種　橘早生、日月桃、大正　天津。傳十郎、早生水蜜、離核、土用　上海、白桃等晚生概ね強し、
一、病梢、病葉、病果は見付次第摘採燒却し、病菌の蔓延及越年を防ぐべし
一、心喰蟲に對しては、袋掛より外に良法なく、心折は見付次第摘殺すべし
一、孵虫發生の時は除蟲菊石鹼液撒布を行ふ、上晶殺蟲劑を代用するも可なり

園藝病蟲防除劑材料供給者例

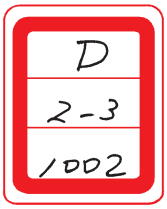
（順次不同）

品名	所在地	供給者
工業薬品	東京日本橋通三丁目	問屋里村三次
パリスグリーン	同	同
工業薬品	東京日本橋伊勢町十六	問屋小西安兵衛
生石灰	長野市千歳町	鷲澤二郎
砒酸鉛	東京市外荏原郡平塚村	古河電氣工業株式會社理化試驗所
和製タングルフード（ライム）	同	同
石灰硫黄合劑	靜岡縣清水町	北村新兵衛
粉末石鹼	本縣丸子町	工化石鹼株式會社
同	東京市外上澁谷卅一	石油乳劑石鹼株式會社
デリス粉	東京市外南品川宿、百反	デリス製劑株式會社
石灰窒素	東京市日本橋本革屋町四	電氣化學工業株式會社
上晶殺蟲劑	長野市千歳町九	笠井勝太郎
石灰硫黄合劑	大阪市西區川口町十五	大日本人造肥料會社支店
クレオリン	東京市外田端町四九四	大彦製劑所
猫いらず（野鼠用）	東京市日本橋本石町三丁目	成毛商店
野鼠チブス菌培養液		長野縣農會
薬品	上水内郡豐野	小賣　山本藥店
同	長野市權堂町	小賣　湯田藥店
除蟲菊粉	大阪市南區東清水町	山彦除虫菊株式會社
同	大阪市西區土佐堀三丁目	大日本除虫菊株式會社
同	和歌山縣有田郡箕島	帝國除中株式會社
アデカ農用石鹼及硫酸銅	東京市丸之内	旭電化工業株式會社（古河系）

園藝病蟲防除器具供給者

（順次不同）

種別	名稱	價格	供給者所在地	供給者	備考
噴霧器	舶來車輪付噴霧器	九五、〇〇	橫濱市中村町二一	橫濱植木株式會社	藥桶車輪村大形
同	省力式サクセスポンプ	二一、〇〇	同	同	堅牢槓杆把手
同	アボールポンプ	一六、〇〇	同	同	室內用舶來
同	牛田式車輪付自在噴霧器	二〇、〇〇	東京芝白金三光町	牛田工場	藥桶車輪付大形
同	牛田式噴霧器	一九、〇〇	同	同	一本管サクセス型
同	牛田式改良自在噴霧器	二七、〇〇	同	同	一本管槓杆把手
同	牛田式輕便噴霧器	八、五〇	同	同	室內用アボール型
同	宿谷最新式噴霧器	一三、〇〇	京下谷眞嶋町一	宿谷製作所	一本管サクセス型
同	宿谷グリホン二號噴霧器	一九、〇〇	東京下谷眞島町一	同	堅牢一本管
同	宿谷グリホン一號噴霧器	二四、〇〇	同	同	一本槓杆把手
同	宿谷クラスター	二〇、〇〇	同	同	藥桶車輪村大形
同	防火噴霧兩用喞筒	一九、〇〇	東京神田旅籠町一丁目	東京喞筒株式會社	省力二本管
同	藤井式强力噴霧器	一七、〇〇	岡山市弓之町縣農會前	藤井正治	一本管蔬菜用
同	河村式强力噴霧器	一七、〇〇	廣島縣福山市住吉町	河村工場	一本管蔬菜用
同	米澤式車輪付動搖噴霧器	九五、〇〇	更級郡榮村	小林廣作	車付大形
同	米澤式足押噴霧器	二五、〇〇	同	同	一本管中形
同	諸式		東京淺草區七軒町四	日本喞筒商會	
同	諸式		東京市外中野町八二三	橋本春吉	
	ゴム手袋、ゴム筒袖	二、五〇	東京日本橋檜物町	井出市太	
同		二、五〇	東京神田今川橋	西川商店	
同		不詳	大阪市東區道修町二丁目	宗田新商店	


D
2-3
1002